

馬場 康宏（ばば やすひろ：東京成徳短期大学 幼児教育科）

主な担当授業：教育心理学、保育内容研究（人間関係）、青年心理学

専門：教育心理学、学校心理学

「遊び」って何だろう？

●「遊ぶ」ことは好きですか？

皆さんは子どもの頃、どのような遊びをしていましたか？遊ぶのは好きだったでしょうか？この問いにはおそらく 100%の人が「好き」と答えるでしょう。それもそのはず、もともと遊びとは、自発的に行われその行動を楽しむこと自体が目的になっている活動を指します。自分の意思で興味あるしたいことをするのが遊びです。

一般的に遊びという言葉は「学業や仕事」に対する「遊び」のように、本来しなければならない活動の反対側に位置するものとして捉えられます。その一方で「子どもは遊びが仕事」という表現も見られます。人の発達における遊びの大切さをうまく表した言葉です。

●昭和の時代の思い出

私が小学校 3、4 年生の頃だったでしょうか。当時、短期間でしたが私たち男子の間で馬乗りという遊びが流行りました。地域によってルールやよび方に多少違いはあるでしょうが基本的には以下のような遊びです。

1. 馬側と乗り手側の 2 チームに分かれる（大体 1 チーム 5～9 人くらいになった）
2. 馬側はまず一人目が壁に立ち、その足の間に二人目が頭を入れて馬になる。三人目以降も同様に馬になって連なる。
3. 乗り手側は一人ずつ順番に、後方から馬に飛び乗る。
4. 馬側は途中で崩れたら負け。乗り手側は馬から落ちるか地面に足や手をついたら負け。
5. 乗り手側が全員馬に乗った時点で勝敗がついていなければじゃんけんをする。

この遊びで勝つためには、作戦を立てることが重要でした。乗り手側は相手の馬を崩しやすく、かつ全員が乗れるように飛び乗らなければなりません。チームの間には体重の軽い者や重い者、遠くまで跳べる者や跳べない者、高く跳べる者や跳べない者など個々の特徴もさまざまです。勝つために一人ひとりの役割を決め、全員の特徴がうまく生きるように跳ぶ順番を工夫しました。私たちは互いの違いを全て戦略面に生かそうとしました。

今にして思えば、誰も怪我をしなかったのが不思議なくらい荒っぽい遊びでしたが、そこは昭和の時代のお話です。授業終了のチャイムと同時に喜々として廊下や校庭に駆け出してこの遊びに興じていました。遊び自体はもちろんのこと、互いの存在を尊重しあえる友達関係がとても楽しく、心地よかったことが思い出されます。

